

Newsletter

No. 3 | September 30 2018

東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点

多様性と相乗的発展

東京医科歯科大学は「知と癒しの匠を創造し、人々の幸福に貢献する」の基本理念のもと、東京から世界へと翼を広げ人々の健康と社会の福祉に寄与するべく国際展開にも注力しています。本学はその実績とポテンシャルにより、文科省が2014年に開始したスーパーグローバル大学創成支援事業のトップ型に採択されたことを契機として、一層の国際展開を推進しています。海外派遣学生は学部生を中心にここ数年、毎年300名を超えており、多くの国において多様な環境で学びの機会を得ています。

チリ、タイ、ガーナに設置された海外拠点は本学の国際展開の要です。2018年4月に特命副学長(国際担当)を拝命し、6月のタイに続き7月にチリを訪問して、教育・研究プロジェクトの今後について打合せました。2泊3日と短期間でしたが、本学のチリ拠点であるラテンアメリカ共同研究センター(LACRC)を皮切りに、クリニカ・ラス・コンデス(以下CLC)、チリ保健省、在チリ日本国大使公邸、チリ大学医学部、サン・ポルハ病院、国際シンポジウムENDOSUR会場等を訪問して関係の先生方と意見交換をし、また大腸癌早期診断プロジェクト(PRENEC)関係者とも面談しました。訪問した先々で本学の寄与への謝意とともに今後の期待を寄せられ、これまで先陣を切ってご尽力された本学の先生方に敬意の念を禁じ得ませんでした。同時に、日本側とチリ側が相補的な連携をすることで相乗的な発展につながるとの認識を新たにしました。

2007年盛夏1月に訪れて以来のサンティアゴの景色の記憶は薄れており、アンデスの山々へ続くスモッグの層を見て、はたと蘇った他に頭に残った紫のジャカランダの花は真冬の7月に望むべくもなく、プラタナスの乾いた葉と鈴懸様の実のカサカサ感が今回の印象です。思い出したのは、ラテンアメリカ各国から選抜された学生への幹細胞教育プログラムに招かれ、2週間宿とチリ大学を往復した日々。学生達と三度の食事を共にしながら教授陣が講義・実習・プレゼン指導をし、多様なレベルと学問背景の学生がインタラクティブにグループプレゼンテーションを完成させていったこと。今回の訪問では、本学医学科のプロジェクトセメスター学生とジョイント・ディグリー・プログラム大学院生にも会い、チリという異文化環境での戸惑いにも適応しつつ励んでいる様子を見ました。彼らもきつと多様性に触れながら自身の能力を相乗的に伸ばして行くに違いないと思いつつペンを置くことにいたします。本学のチリでの活動に御関係の先生方におかれましては、引き続き本学の国際展開にご支援を賜りますようお願い申し上げます。

特命副学長(国際担当)・統合国際機構長
田賀哲也

LACRC TMDU
IN CHILE
Latin American Collaborative Research Center
Santiago de Chile



Contents

ご挨拶	1
TMDU訪問団の活動報告	2
JDプログラム	7
PRENECの進捗状況	8
プロジェクトセメスター	9
活動報告	10

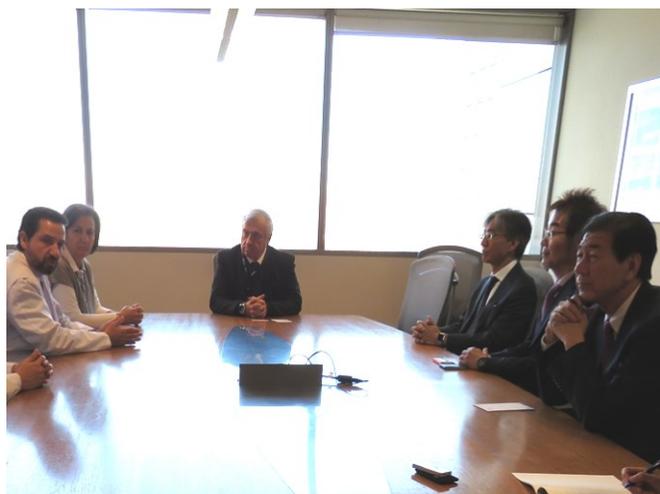
TMDU訪問団の活動報告

本学の田賀哲也特命副学長、安野正道特命教授、ソニア・レオン・カマラ国際交流課総務係員の3名からなる訪問団が7月29日からチリを訪れました。本号では訪問団の活動をお伝えいたします。

クリニカ・ラス・コンデスにおける会議

7月30日午前、訪問団はCLCを訪れ、PRENECにおける今後の本学の方針について協議を行いました。この会議にはCLCよりマニャリッチCEO、チョマリ院長、PRENEC責任者のロペス医師（大腸肛門科長及びがん研究所長）、PRENEC業務補佐のサラテ医師が出席し、本学からは訪問団に加えて、招聘を受けて訪智中の江石義信教授、LACRCの小田柿智之助教、松宮由利子医師が出席しました。会議後には、田賀哲也特命副学長よりロペス医師へ本学の客員教授辞令の授与が行われました。

またこのCLC訪問に併せて、CLC内に位置する本学の拠点であるLACRCオフィスも訪れました。



会議の様子



左より江石教授、チョマリ院長、田賀特命副学長、マニャリッチCEO、ロペス医師、安野特命教授、ソニア係員、サラテ医師



客員教授辞令を受けるロペス医師(左)



LACRCオフィス前にて記念撮影(左よりサラテ医師、安野特命教授、田賀特命副学長、小田柿助教、松宮医師)

チリ保健省における江石教授の顕彰式

7月30日午後、チリ保健省において江石教授のこれまでのチリにおける功績を称える顕彰式が行われました。式典には、チリ保健省サンテリセス大臣、ゴイック上院議員、モレイラ上院議員、チリ国際協力開発庁(AGCI)リラ長官、在チリ日本国大使館の平石好伸大使、倉田進一等書記官、JICAチリの半谷良三所長、小林としみ所長代理にご臨席を賜りました。



左よりロペス医師、平石大使、サンテリセス大臣、江石教授



記念品贈呈の様子

在チリ日本国大使公邸へ訪問

7月30日、平石大使御夫妻の御厚意により、本学訪問団、江石教授、小田柿助教、松宮医師を招いての夕食会が、在チリ日本国大使公邸で開催されました。会には本学職員の他、大使館の倉田一等書記官、JICAチリの半谷所長も参加されました。



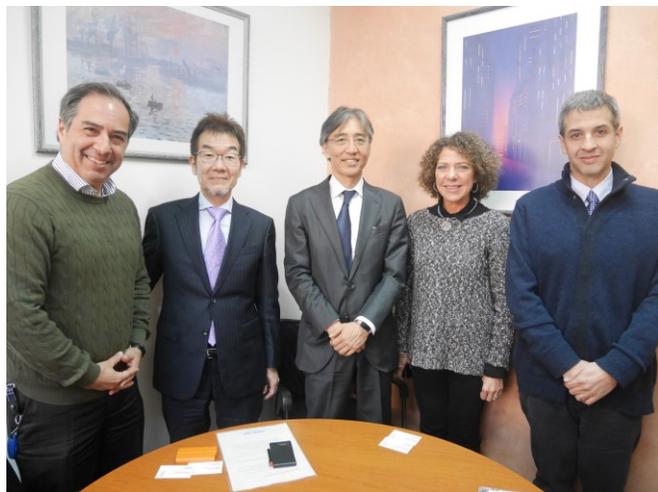
左より平石大使夫人、田賀特命副学長、平石大使



平石大使らと記念撮影

チリ大学医学部訪問

7月31日午前、本学訪問団がチリ大学医学部を訪れ、オライアン教授、トレス准教授、アウマダ国際交流課副課長との打ち合わせが行われました。この打ち合わせでは、今後の大学間の新たな展開や、ジョイント・ディグリー・プログラム（以下 JDP）に関する協議が行われました。打ち合わせ後には、田賀特命副学長よりオライアン教授へ本学の客員教授辞令の授与が行われました。



打ち合わせ後の記念撮影



客員教授辞令を受けるオライアン教授(左)

サン・ボルハ病院訪問

7月31日、本学訪問団がサン・ボルハ病院内の日智消化器病研究所を訪れ、エステラ所長と面会をしました。エステラ所長から、LACRCの歴代の赴任者のPRENECへの貢献に対して、感謝の言葉をいただきました。



左より小田柿助教、エステラ所長、田賀特命副学長、安野特命教授



日智消化器病研究所の説明を行うエステラ所長(右)

国際シンポジウムENDOSURへの参加

7月31日午後、サンティアゴで隔年開催されている国際シンポジウムENDOSURへ本学訪問団が訪れました。会期中には、江石教授、安野特命教授、小田柿助教が消化管疾患に関する講演及びワークショップへ参加しました。本学以外にも日本より国立がん研究センター中央病院の松田尚久医師、京都府立医科大学の吉田直久医師が招聘され活発な意見交換が行われました。また、講演の為に来智していたエクアドルのモンタルボ医師と訪問団が面会をし、同国のがん検診の状況について意見交換を行いました。



モンタルボ医師(左)と田賀特命副学長



発表を行う江石教授



会場前にて記念撮影



左より吉田医師、小田柿助教、松田医師

安野特命教授による外科指導

8月の第2週から3週にかけて、チリ国内の地方都市マイブ、ロス・アンヘレス、オソルノの病院にて安野特命教授による手術技術指導及び、講演が行われました。日本の術式にチリ人医師から多くの関心が向けられました。



マイブにおける大腸外科チームとの記念撮影



ロス・アンヘレスにおける手術指導の様子



オソルノにおける講演後の記念撮影



オソルノにおける手術指導の様子

ジョイント・ディグリー・プログラム

9月にチリ大学及びCLCの医師2名が本学を訪れ、JDPの運営について情報交換及び協議を行いました。また昨年同様本学及びチリ大学の合同教職員FD研修を実施しました。本号ではその様子をお伝えします。

チリ大学教員による本学訪問及び JointWorkShop2018@TMDU

本年9月28日にCLCのトレス准教授及びチリ大学のシステルナス医師が本学を訪れ、JDPに係る打合せ及び教職員FD研修「Joint Workshop 2018@TMDU」を行いました。

今年度のFD研修は、効率化の観点から短時間で実施し、JDPの専任教員や学生を含め小規模ながら充実した研修となりました。



JDP 打合せの様子



「Joint Workshop 2018@TMDU」の様子



左より植竹教授、小嶋教授、秋田JDP推進部門長、トレス准教授、システルナス医師、田賀特命副学長、岡田講師

PRENECの進捗状況

大腸癌早期診断プロジェクト(PRENEC)の最新情報をご報告いたします。現在、プンタ・アレナス、サンティアゴ、バルパライソ、バルディビア、オソルノ、コキンボの6都市でプログラムが行われています。6都市に加えて、コンセプション及び国外パラグアイでは、PRENECの開始に向けての準備が進行しています。

PRENECに関する論文がいくつかの医学誌に掲載されましたので、本号ではその内容をご紹介します。

PRENECに関する論文の掲載



Next Abstract >

Histopathologic study from a colorectal cancer screening in Chile: results from the first 2 years of an international collaboration between Chile and Japan

Kobayashi, Maki^a; Kawachi, Hiroshi^a; Pasternak, Samara^a; Delgado, Carlos^a; Pinto, Pablo^a; Ito, Takashi^a; Karelavic, Stanko^a; Carrasco, Hernan^a; Tanaka, Koji^a; Okada, Takuya^a; Odagaki, Tomoyuki^a; Zárate, Alejandro J.^{a,b}; Ponce, Alejandra^a; Kronberg, Udo^a; López-Köstner, Francisco^a; Tsubaki, Masahiro^a; Kawano, Tatsuyuki^a; Eishi, Yoshinobu^a

European Journal of Cancer Prevention: June 28, 2018 - Volume Publish Ahead of Print - Issue - p
doi: 10.1097/CEJ.0000000000000454
Research paper: PDF Only

学術誌European Journal of Cancer Preventionオンライン版掲載記事より
掲載内容URL: https://journals.lww.com/eurjcancerprev/Abstract/publishahead/Histopathologic_study_from_a_colorectal_cancer.99250.aspx



Digestion

Short Communication

A Pilot Trial to Quantify Plasma Exosomes in Colorectal Cancer Screening from the International Collaborative Study between Chile and Japan

Kobayashi M.^a · Kawachi H.^a · Hurtado C.^b · Wielandt A.M.^b · Ponce A.^b · Karelovic S.^c · Pasternak S.^d · Delgado C.^d · Pinto P.^d · Carrasco H.^e · Ito T.^a · Okada T.^a · Tanaka K.^a · Odagaki T.^a · Zárate A.J.^b · Kronberg U.^b · López-Köstner F.^b · Tsubaki M.^a · Kawano T.^f · Eishi Y.^g

Author affiliations

Keywords: Plasma exosomes · Colorectal adenoma · Colorectal cancer · Screening · Immunochemical fecal occult blood test

Digestion 2018;98:270-274

学術誌Digestionオンライン版掲載記事より
掲載内容URL: <https://doi.org/10.1159/000490559>

本年6月、LACRCの前赴任者である河内洋医師及び小林真季研究員が取り組んできたPRENECに関する論文

「Histopathologic study from a colorectal cancer screening in Chile: results from the first 2 years of an international collaboration between Chile and Japan」がEuropean Journal of Cancer Prevention誌に掲載されました。この論文は、プンタ・アレナスにおいてPRENECが開始された2012年から2014年の2年間における、病理組織学的検討結果をまとめたものです。初期PRENECにおける象徴的な成果の一つである、陥凹型早期大腸癌の発見についても述べられています。

また8月には、同氏らによる論文「A Pilot Trial to Quantify Plasma Exosomes in Colorectal Cancer Screening from the International Collaborative Study between Chile and Japan」が雑誌Digestionに掲載されました。本研究ではプンタ・アレナスにおいてPRENEC参加者の血液サンプルをもとに血漿エクソソームの含有量を検討しました。癌患者と腺腫の段階までにとどまっている患者を比較した結果、前者は後者の約2~3倍の血漿エクソソームが測定され、このことから血漿エクソソームの測定は大腸癌高リスク群のスクリーニングに有用であることが示唆されました。

これらに加えて、チリ側からもロペス医師・サラテ医師らによる論文「Programa multicéntrico de cribado de cáncer colorrectal en Chile」がチリの医学雑誌 Revista Médica de Chileに掲載されました。この論文ではチリ国内の複数施設で行われているPRENECの2012年から2015年における検診参加者12,668名の結果を分析しています。本検診プログラムでは免疫学的便潜血反応検査において高い回収率が達成され、また癌と診断された患者の多くが内視鏡によって治療されているという成果が示されています。

掲載内容URL: https://scielo.conicyt.cl/scielo.php?script=sci_abstract&pid=S0034-98872018000600685&lng=es&nrm=iso&tng=en

プロジェクトセメスター

本学は、2010年から学生海外基礎医学実習(プロジェクトセメスター)の目的で、医学科4年生を約4～6カ月に渡ってチリの研究施設に派遣しています。

今号では、6月初旬より研究に取り組んでいる2名の学生からチリの生活の様子をお伝え致します。

学生チリ滞在記

川上七海 チリ大学 感染症学研究室所属

光陰矢の如しで、5月末に始まったチリでの生活も残すところ1ヶ月強となってしまいました。9月はチリ独立記念日がありチリ全体がとても盛り上がっています。街中に国旗がはためき、あちらこちらでチリの伝統的な踊りが披露されている光景に最初はとても驚きました。

ノロウイルスのジェノタイプングというテーマで進めている研究も最終段階に入ってきており、PCRなどの手技を使う場面が終わりつつあります。今後はシーケンスの結果をまとめて最終発表に向けた準備を行っていく予定です。

生活面としては、休暇や独立記念日周辺の祝日を使って南米旅行を楽しみました。遊びに来てくれた大学の同級生と共にペルー、ボリビア、チリ北部をまわり、マチュピチュ、ウユニ塩湖、アタカマ砂漠など南米を代表する地域を見てきたり、医科歯科大学から同様に留学している松宮先生と隈さんとアルゼンチンのイグアスの滝の観光に行ったりと盛りだくさんの1ヶ月を過ごすことができました。

チリ生活も終盤に差し掛かりますが、最後まで研究もそれ以外の時間も充実したものにできるよう精一杯取り組んでいきたいと思います。



南米旅行は一生の思い出になりそうです

隈 宙音 チリ大学 腎臓病学研究室所属

こんにちは！6月よりチリ大学医学部腎臓病学研究室に派遣されております医学科4年の隈宙音です。段々と暖かい日が増えており、春の兆しを感じるようになってまいりました。

今月は少し長めの休みを頂き、国内外を旅行してきました。まずペルーに始まり、ボリビア、チリ(アタカマ砂漠)、ウルグアイ、アルゼンチン、そしてパラグアイと、近隣諸国を大方周ることが出来たのではないかと思います。駆け足になってしまったのでゆっくりと現地の雰囲気を堪能することは難しかったのですが、日本では「南米」と一括りにされてしまいがちなこれらの国々もそれぞれ特徴があり、時には同じ大陸にあるとは思えないほどの違いを感じることもできました。

研究についてですが、土日にもラポに出向いて実験していたおかげか、初めは失敗の連続だった実験技術がようやく身についてきました。残りの滞在期間は長くありませんが、後悔の無いよう、精いっぱい努力し続けてまいります。



パラグアイのイグアス移住地の畑の様子。60年以上前に移住した時にはただジャングルが広がっていたそうです。

LACRC活動報告

日智消化器病研究所主催のアクティビティへの参加

8月15日、サンボルハ病院の日智消化器病研究所の医師・看護師らを対象としたチームワークを高めるためのアクティビティに小田柿助教が招待されました。本学からの赴任者もチームの一員として認められていることは、長年の活動の積み重ねによる成果であり、今後も良好な関係を保ちながらチリの医療に貢献していければと思います。



日智消化器病研究所のスタッフとの記念撮影

研究会における発表



8月31日、小田柿助教がチリの癌研究会グループであるGOCCHIの開催する研究会 1st Update Course in the Treatment of Gastrointestinal Tumorsにて食道胃接合部がんの内視鏡治療に関する発表を行いました。

編集後記

チリの独立記念日である18(ディエシオチョ)が過ぎ、暦上では春を迎えましたが、ここ2週間程寒い日が続きアンデス山脈の頂が再度、冠雪を見せました。新芽をつけ始めた木々はつぼみを開かずじっと春を待っているようですが、ここ数年チリでの花粉症に悩まされる私としては少しでも遅い春の到来を願うばかりです。

今後も本Newsletterを通してLACRCの活動を報告してまいります。(早川美貴)

東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点
Latin American Collaborative Research Center
Newsletter No.31, September 2018

[発行日] 2018年9月30日
[制作] Latin American Collaborative Research Center
Tokyo Medical & Dental University
Clínica Las Condes
Lo Fontecilla 441, Las Condes, Santiago, Chile
Tel: (56-2) 2610 3780
Email: LACRC-CHILE.adm@cmn.tmd.ac.jp